

SCOUTING 茨城

ボーイスカウト茨城県連盟は、社会の変化に即応して、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、問題をより良く解決する資質や能力を高める活動を行っています。また、その中で、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を養い、そして、たくましく生きていくための健康や体力を獲得することを重点的に取り組んでいます。

Vol.

53

2022
#1



Catch The Scouting Spirit
三指がつなぐ、ひとつの想い
～過去、今、そして未来へ～

活動的で自立した青少年を育てる ★ ボーイスカウト！

70周年を超えた 飛躍の年に



連盟長 関 正樹

新年あけましておめでとうございます。2022 年が皆様にとって希望の年となり、日本ボーイスカウト茨城県連盟が飛躍する年となることを祈念しております。

2021 年は世界的にも新型コロナウイルスが猛威を振るい大変な年でした。1 月と 4 月の 2 度にわたる緊急事態宣言の発出、第 5 波とよばれるデルタ株の大流行、医療のひっ迫と自宅療養者の急増など、日本全体がコロナに翻弄されました。日本ボーイスカウト茨城県連盟でも、8 月に予定していた第 20 回茨城県キャンポリーが中止となり、11 月の 70 周年記念式典は 2022 年 2 月に延期となりました。また、多くの指導者研修やスカウト訓練が中止や延期となり、スカウト活動も自粛を余儀なくされました。

しかし、そのような状況にあっても、オンライン隊集会の開催や、スカウトが自宅で取り組める活動の工夫をされた団・隊も多くありました。また、これまで集まって対面で実施していた会議や研修がオンラインとなり、参加しやすくなったり、時間や経費が節約できたりと、良い変化も生じています。ボーイスカウト運

動を絶やさないために、多くのスカウト・保護者・指導者の皆様、関係諸団体の皆様にご尽力いただいたことに、深く感謝いたします。

日本ボーイスカウト茨城県連盟では、創立 70 周年を契機に「茨城県連盟の未来のための取り組み」をまとめ、「今」を変えることで、「未来」を創ろうと考えています。そのためには、スカウト運動の原点に戻り、子どもたちが楽しく自発的に活動するスカウト活動を展開しなければなりません。私も微力ながら連盟長として、茨城県やボーイスカウト振興茨城議員連盟、ボーイスカウト茨城県連盟維持財団などの行政・諸団体と連携協力して、この運動の発展に尽力したいと考えています。

日本ボーイスカウト茨城県連盟が、70 周年を超え「未来」に羽ばたく飛躍の年となるよう、隊・団・地区・県連盟が力を合わせて取り組んでまいりましょう。

県連盟創立70周年を契機に 未来に希望を 持てる スカウト運動を



理事長 八木 雄二

年頭挨拶

新年あけましておめでとうございます。

2022年の新春を、加盟員の皆さんとともに迎えることができましたことを大変うれしく思います。

昨年（2021年）は、県連盟創立70周年という節目の年を迎えましたが、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大により、8月に予定しました第20回茨城県キャンボリー大会が直前になって中止のやむなきとなりました。近年、スカウト数の減少に伴い各国とも班活動が出来にくい状況が続いているため、キャンボリー大会においては、本来のスカウト活動を提供すべく準備をしていたため、大変残念なことであります。

一方、県連盟では、2021年度を「70周年記念YEAR」と位置づけ、次の10年に向けた新たなスタートの年にすべく70周年記念YEARプログラムを各国がこぞって取り組んでまいりました。コロナ禍の中での取り組みとなりましたので、プログラムの取り組みに不安要素はありましたが、各国のご努力によりプログラムは日程等の変更はありますが、所期の目的を達成すべく進行しております。各国の皆さんのご協力に対し感謝申し上げます。

また、コロナ禍による野外活動の制限により、野外を教場とした本来のスカウティングができていない状況の

中、各国・隊のスカウト・指導者および保護者の皆さんには献身的なご努力をいただき、スカウト活動を継続実施することができましたことに対し、関係各位の皆さんに重ねて感謝申し上げます。

さて、本年は第18回日本スカウトジャンボリー開催の年になります。本来でありますと東京での開催を予定しておりましたが、コロナ禍の影響で一ヶ所に集まる大会はコロナ感染リスクの拡大につながることから、サテライト会場を設け、分散開催することとなりました。関東ブロックで三ヶ所、その内一ヶ所のサテライト会場として「高萩スカウトフィールド」を茨城県連盟が担当することとなり、県連内に実行委員会を立ち上げ準備を加速させているところであります。開催にあたりましては、参加各県連盟のご協力をいただきながら、茨城県連盟の総力を挙げて取り組んでまいります。各国におかれましては大会への参加はもとより、運営に対するご協力をお願いいたします。

更に、本年は創立70周年を契機に次の10年に向けてのスタートの年になります。加盟員一人ひとりが先人たちの想いをつなぎ、未来に希望を持てるスカウト運動を実践する年にしたいと思います。

スカウティングの目的

「人格を高めること」
「健康を保つこと」
「技能をみがぐこと」
「奉仕、人の助けとなること」

よくスカウティングは上梓内の4本の柱によって構成されているといわれています。

ベーデン・パウエル卿（ボーイスカウト運動の創始者）の考えでは、このはじめの3つ「人格」「健康」「技能」は、すべて「奉仕」を行うための「そなえ」であるとされています。「技術のための技術」といったものに重心がおかれているのではなく、スカウトが社会に役立ち、自らも幸せを感じることができるよう、そのために「つねに」「そなえ」ることが願われています。もちろん溺れている人を助けたいと思ったときには、まず自分が泳げなくてはなりませんので、まずは「そなえ」が重要であるのはいうまでもありません。それら人格も健康も技能も、すべて奉仕につながるもの、「奉仕」のための「そなえ」でなければならないとB-P卿は言うのです。

この「奉仕」という言葉ですが、B-P卿が実際に使った言葉は「Service」です。辞書には「Service」には「礼拝」という意味を見つけることができます。「礼拝」するということは、「絶対者（神）に向き合う姿勢のことであり、その教えを聞き実践することことです。「神（仏）と国とに誠をつくし……」とボーイスカウトの「ちかい」にあります。まさにこのことそのものです。B-P卿の次の言葉の中には、はっきりとそうした考えが見受けられます。

「宗教は（スカウト）活動に、

外からかかわってくるものではなく、はじめから活動の中に存在しているのです。そしてそれはスカウト活動の基盤となっている根本的な要素なのです。」

「奉仕 = Service」とは、たくさんの「私を在らしめている存在」に「ありがとう」をいうことではないでしょうか。手を貸してほしい人があれば少しでもその役に立てるようにと努力すること、そのことを通して、私を在らしめているたくさんの存在に（自分のできる範囲で）お返しをする行為、それが奉仕なのではないでしょうか。そのために日頃から人格をみがき、健康をこころがけ、技能の修得に励むこと、役に立てるようになること、これこそがまさしくスカウティングだと考えるのです。

下の言葉は、日本連盟初代総長 後藤新平氏の有名な言葉です。

これはスカウティングの奉仕について簡潔に、そして的確に表現した素晴らしい言葉です。私たちはこれを目指します。もちろん、ここで重要なのは「そして報いを求めぬ」の一節でしょう。「報い」を求めてしまえば、その行為は「交換（商売）」と何らかわりがなくなってしまう。仏教では「報い」は十分すぎるほどいただいていると考えます。「報い」をしなければならないのはむしろ「私」の方だと、そう言い換えてもいいでしょう。こう考えると「奉仕をする人」と「奉仕をされる人」という概念もまた消えてなくなるのではないのでしょうか。

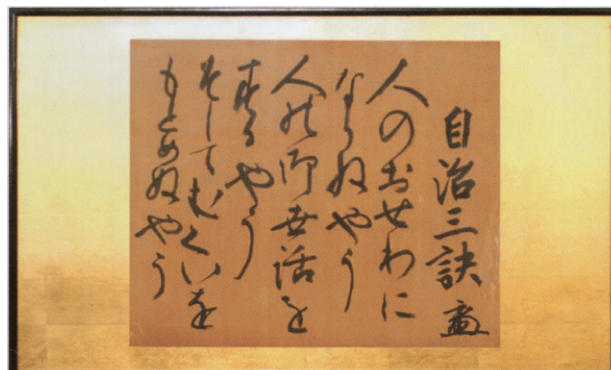
さて、スカウティングでは、スカウトの年齢に応じ、わかりやすく段階的に奉仕の心

が育てられるように示されていますが、肝心なことは「ちかい（やくそく）とおきて」の実践を目指すように心がけることです。集会や生活などの日頃の実践の中で「ちかい（やくそく）とおきて」に自らのその日1日を照らし、「今日は何ができたかな」「（できなければ）この点を反省しよう」というふうに自分を見つ振り返ることが大切なのです。こうした心がけは、繰り返し繰り返し行うことで身に付くことだと思います。

スカウティングの4本柱の2つめに「健康を保つこと」があります。言い換えれば健康な身体をつくるということです。近年問題になっている「労を惜しむ」「無気力・無関心」「持久力の傾向の原因は、案外、単に「健康でない」肉体にあるのかもしれませんが。ここで必要とされている「体力」とは、スポーツや体育によって育まれる「競争に勝つための体力」ではなく、野外活動によって育まれる「ともに生きるための体力」です。それは、オリンピック選手のような派手で華麗な筋肉ではなく、農家のおばちゃんや両親のおじさんが持つ地味だけれどしっかりした筋肉を育むことです。そこでは「はやく走る」よりも「しっかりと歩く」ことが重要なのです。ボーイスカウトでは、その教場としている野外における活動は、自然の環境の中で実際にしっかりと自分の身体を動かすことを通して行われます。そこにこそ、スカウティングの第一の特徴があると言えるでしょう。

（「スカウティングと仏教と相馬順敬」より）

（写真は「小学校のお宝」龍ヶ崎市より）



自治三訣
人のお世話にならぬよう
人のお世話をするよう
そして報いを求めぬよう

● スカウティングはゲームである



私たちは、子どもの習い事などに大きな影響力を持つ母親の率直な声に耳を傾けているだろうか？ そしてまた、私たちはボーイスカウトの教育法を正しく理解しているだろうか？

あるスカウトの保護者が「長いスパンで子どもを見てくれるのはボーイスカウトぐらい。学校の担任は数年で変わってしまう。」と言っていた。指導者は、スカウトが離れていかなければ、スカウトと一生付き合っていくことができる。中学校の教員が教え子の結婚式に招かれるのはあまり多くないといわれている。一方で、ベンチャー隊長を経験した方で当時のスカウトの結婚式に招かれたことのある方は大勢いるのではないだろうか。高校生という一番多感な時期に体当たりで真剣にスカウトと接して、上進した後も団行事などで顔を合わせることが多い中で、スカウトの心にベンチャー隊長が刻まれるからこそ、人生の最高の門出の結婚式に招待したくなるに違いない。

その一方で「本当にこの人は、隊指導者をやりたくてやっているのだろうか」と疑問を持たれるような指導者がいる事も否定できない事実である。耳が痛い。

この2つの事例から、隊指導者に最も必要とされる要素の1つに「情熱」が挙げられるということには異論がないと思う。教育に必要な三要素というものがある。

1つ目は、**時間**である。この時間というのは、子どもが生まれたときから一緒にいる保護者には敵わない。2つ目は**技術**である。この技術というのは、教員になるために大学で勉強してきた方には敵わない。3

つ目は、**情熱**である。私たち、ボーイスカウトの指導者は、この情熱こそをしっかりと持ち続けなければならないものである。

しかし、この情熱はただ注げばいいというものではない。私たちはボーイスカウトに加盟登録をして、ボーイスカウトの制服を着て、ボーイスカウトとして活動をしているのである。何処の誰から見ても「ボーイスカウト」なのである。ボーイスカウトの活動が「塾」や「習い事」であってはならない。それはボーイスカウトの方法でボーイスカウトの教育の目的に沿っていないのである。ただし、それに沿っていれば、どんなプログラムを行ってもいいという懐の広さも持っている。そこが、指導者が創意工夫をして、やり甲斐を感じるところであろう。

次は、「ボーイスカウトの方法」である。「班制教育」「進歩制度」「野外での活動」の3つがボーイスカウトを象徴する方法であるが、それらを推進していく上で重要になるのが「スカウティングはゲームである」という考え方なのである。スカウティングでおこなわれる「ゲーム」には、大きく3つの種類がある。1つ目は、アクティビティとしてのゲームである。具体的には、レクリエーションゲームといわれるもので「ハンカチ落とし」とか「泥棒巡査」などである。2つ目は、スカウトの活動単位である異年齢で構成される「班」というチームで行われる対班競点で、班の先輩スカウトから後輩のスカウトへの知識や技能、心構えや楽しみ方の伝承とも言える。先輩から教わって試してみる。失敗をしても許容され、

できるようになると言う姿勢が尊重されるので、遠慮なく取り組むことができ、できたときには祝福が待っている。そして先輩に1歩近づいて行くと同時に、自ら行うという姿勢が身に付いていく。またチームであるから、隊集会に向けての準備や作戦会議にも一員として参加でき、自分の得意分野で貢献することでの喜びも味わえる。こうして良き人間関係を築く基礎ができ、スカウトがスカウトを教えることスカウトを大きく成長させる「班でのゲーム」である。

3つ目は、「辛い」を「楽しい」に変える気持ちの持ち方、すなわち「自分の中でのゲーム」である。例えば、重い荷物を遠くまで運ばなければならない時に、どうすれば効率よく運ぶことができるか、を考えることは創意工夫の意識が高められ、重い荷物を降ろさずに何歩歩けるかなど身近な目標を設定して取り組むことは、「辛い」を「楽しい」に変える「ゲーム」なのである。この意識が身に付けば、辛い受験勉強も楽しい受験勉強に変わり、ゲームとして取り組むことができる。

ここで重要となるのが指導者の理解である。世の中は大人が子どもを教えるという構図になっているが、ボーイスカウトでは、子どもが子どもを教える方法を採用している。大人（指導者）は、スカウト達ができる様な仕組みや仕掛け（プログラム）をつくり、かつミッションを提示し、隊集会という班の練習成果を発揮できる場を用意してスカウト達に実践させ、それを評価し、スカウト達を伸ばしていく。それを理解してスカウティングを行うことだ。

01 スカウトの日 SCOUTS for SDGs

毎年9月の敬老の日（第三月曜日）を「スカウトの日」と定め、全国のスカウトや指導者が地域社会への奉仕活動をはじめとする様々なスカウト活動を全国の各地域において一斉に展開し、加盟員一人ひとりが地域社会に貢献することを目的に実施しています。加えて、スカウト運動が地域社会に根ざした実践活動であることを広く社会にアピールする機会として取り組んでいます。

持続可能な社会を目指して、自分たちができることから取り組むことで、みんなで地球を大切にする取り組む「スカウトの日」の活動は、昭和49年のシニアスカウトフォーラムでの『より良い社会を目指して、スカウトは何をすべきか』の取り組みから始まりました。

スカウトの日は、テーマである「I Lovr the Earth.」のもと「日日の善行」の一環として持続可能な社会を目指して、自分たちができることから、みんなで地球を大切にする取り組みを行っています。地域清掃や植林活動、社会福祉施設の訪問など敬老の日にちなんだ活動、人権・平和・国際理解をテーマとした活動、地域のニーズによる地域の方々と共に行う身近な奉仕活動、また、持続可能な開発目標（SDGs）を達成するための活動などが、積極的に行っています。

茨城では、コロナ下であっても、22の団で、613名のスカウト、指導者、そしてスカウトの家族や関係者が、スカウトの日に関する様々な活動に取り組みました。



神栖第1団



坂東第1団



水戸第8団



笠間第2団



日立第5団



ひたちなか第1団



取手第3団



水戸第4団



古河第1団



牛久第4団



龍ヶ崎第1団



城里第1団



取手第1団



02

叙勲 佐野英樹 先達 瑞宝双光章を授かる

当県連盟の 佐野英樹 先達は、この度、国から瑞宝双光章を授与されました。誠におめでとうございます。

佐野先達は、平成 8 年に地区代表理事、平成 11 年に副理事長、平成 12 年に理事長、平成 17 年からは副連盟長に就任し、平成 29 年に先達の称号を贈られています。

(先達: せんだつ。先達はボーイスカウト茨城県連盟が贈る称号で、当県連盟に於けるスカウティングへの指導面での実績が極めて大である人に贈られるものです。)



03

ボーイスカウト振興茨城議員連盟から助成金をいただきました。

「ボーイスカウト振興茨城議員連盟」は、57 名の茨城県議会議員で構成される超党派の議員連盟です。ボーイスカウトの活動にご理解をいただき、長年に亘り、茨城県連盟の活動へ数々のご支援をいただいております。

本年度も、県連盟、維持財団に助成金をいただきました。助成金はスカウトの地域貢献活動に役立たせていただいております。

04

ボーイスカウトとあそぼう! ワクワク自然体験あそび

ボーイスカウトでは「ボーイスカウトとあそぼう! ワクワク自然体験あそび」事業を展開しています。これは、感染防止に十分留意した上で、自然の中での体験活動を充実する取組みを全国的に展開することで、子供たちを取り巻く環境に生じている閉塞感を打破すること、そして子供たちの元気を取り戻し健やかな成長を図ることを目的としています。この活動を通じて、ボーイスカウト運動の普及を図っていくものでもあります。今年度、茨城県内では、地区と団で合わせて 6 つの「自然体験遊び」が実施されます。



05

土浦市と災害協定を締結

令和 3 年 12 月 24 日に、土浦市役所において、土浦市と日本ボーイスカウト茨城県連盟の間で防災協定が締結されました。

茨城県連盟では、指導者の研修の多くを土浦市立青少年の家や隣接する土浦野営場で実施しています。土浦市からは青少年の健全な育成のためのこれら研修事業に厚いご支援をいただいております。その友誼に報いるため 3.11 のような災害発生時に、避難所等に使用するテントや炊事用具、野営資材等や、避難所で役立てられる各種スカウト技能等の提供を行うこととしました。





06

第18回日本スカウトジャンボリー この夏開催

全国の仲間が楽しみにしている4年に1度のスカウトの祭典であるジャンボリーが、この夏開催されます。今回は、コロナ禍の中でリスクを最小限に抑えるため東京の中央会場と全国5つのサテライト会場で開催されます。

茨城県連盟では、このうちの1つの「関東ブロック 高萩スカウトフィールドサテライト会場」を8月5日(金)～10日(水)5泊6日の日程で担当します。



07

進級記章の授与 富士章、隼章、菊章

ボーイスカウト・ベンチャースカウトにおいては、スカウトが自発的に自身が持つ知識や技能を高め、社会に役立てるために、進級課題に取り組んでいます。所定の課題をクリアすると進級記章が授与され、制服の左胸に着用します。

富士章は、その最高記章です。富士章はベンチャースカウト(高校生年代)が取り組むもので、取得するには15の技能章と個人プロジェクトの完遂など高いハードルがあり、全国でわずかに毎年150名程度しか取得できない章です。

隼章は、やはりベンチャースカウトが取り組むもので、富士章に次ぐ進級記章です。

菊章は、ボーイスカウト(中学生年代)の最高記章です。ボーイスカウト日本連盟では、すべてのスカウトが富士章を目指して切磋琢磨するよう、期待しています。

○菊章

2021年6月	神栖第1団	秋武 大介
2021年6月	神栖第1団	廣瀬 廉
2021年9月	守谷第1団	那珂 沙垂奈
2021年10月	水戸第2団	久間 大馳

○隼章

2021年9月	守谷第1団	今井 美沙希
2021年10月	取手第3団	中野 そら

○富士章

2021年11月 水戸第2団 田崎 敦司

◎プロジェクト名「君も、ボーイスカウトになろう！」

(概要)

ベンチャースカウトの交流の場で「ボーイスカウトの認知度が低い」ということで話題になり、自分たちも何かできないかと思い、プロジェクトを企画しました。茨城県内のいくつかの団に活動の写真を提供してもらい、PR動画として編集し、YouTubeに投稿し、その動画によってボーイスカウトに興味を持つ人を増やすことを目的としました。最終的に、そのPR動画がきっかけで、茨城県内、そして日本全国や世界の青少年達が一人でも多くボーイスカウトに興味を持ち、入隊し、近年減少傾向にあるボーイスカウト人口が増えればと思い取り組みました。



SCOUTING 茨城

SCOUTING 茨城 2022年 第1号 通算53号 令和4年1月発行
発行 日本ボーイスカウト茨城県連盟
〒310-0034 水戸市緑町1-1-18 茨城県立青少年会館 3F

- ※ SCOUTING 茨城は、不定期で発行しています。
- ※ SCOUTING 茨城は、県連ホームページからもダウンロードできます。
<http://www.scout-ib.net/>
- ※ SCOUTING 茨城に掲載されている写真・文章等は著作権法等により保護されています。著作権者に無断の複写・転載は堅くお断りいたします。